



ハレンチなきおく

～アナル編～

とある日の放課後

神社の境内で
仔猫を助けた後…

突如何者かに社の中に
引きずり込まれた唯は
手足を拘束され、
十数人に及ぶ大人の
男達に取り囲まれていた――

「うひょーっ」

「お嬢ちゃん、
なんでもあったら
助けに来てね」

「くくくく」

「ガッ」

「ガッ
シッ」

（何なの？この人たち…）

（なんだか
すごくイヤな瞳をしてる…）

「ぐわわわ…」

「お嬢ちゃん
可愛いね♡」

「これは是非正しいですな♡」

ツ!?

「ヤバい
チヨ―興奮してきた♡」

(ちよっ…何っ!?)

「おチが♡
肌がスバスバ♡」

オレ
オレ

さわ
さわ

(カラダ
身体…触られてる…!!)

「雅ちゃんの
パンツは何色かなあ♡」

「おい!
はやく脱がしちまえよ!」

(やだっ…気持ち悪い…!!)

「くっ…やめなさい…」
おんじ

「おっ！
可愛いマンド」

「唯ちゃんはネコが
好きなのかなあ？
さつきも必死に
助けようとしてたし♥」

「大の大人が
よってたかって…」

「恥ずかしくないの!？」

何言ってるの？

これからもっともおっつと
ハレンチで恥ずかしいユトすんのに♪

「おっハア…ハア
たまりませんなあっ」

「おっおっ」

「おっおっおっおっおっおっ」

「おっおっ」

「乳首カワイイ♥」

「おっおっ」

「おっおっ」

「おっおっ」



『○学生の膨らみかけ
おっぱいサイコー♪』

『どう？唯ちゃん』

『気持ちいい？
キモチイイ？』

『ちよっ……やメ……っ！』

『そろだ
後々のためにはビデオを
撮っておかねば！』

『そろそろパンツも
脱ぎ脱ぎしましょうねー♥』

さわ
さわ

なで
なで

イリ
イリ

ん

ん

ん

キ

ん

ん





J〇生尻キタ

!!

ッ!!

カアア

るん♥

「スジまんも
キタ」!!

ス

レ

ロオ



「ちっちゃくてカワイイ
お尻だねえ♥」

「これオレの
チ○ポ入るかなあ」

「~~~~~ツ!!」

ビクッ

ビクッ

ひゃあ!

お

お

「あーと
肛内の具合はどうかかな♡」

「!?」

「!?」

「何!?…お尻っ!?
お尻の穴に指挿れられてる…っ!!」

「……っ!?!」

「あ」

「は」

「ニニニ」

「くっく」





ずほっ

「おっほり
ギツチギチ♥」

ずほっ

ずほっ

「これはたっぶり
楽しめそうだな♥ひひひ」

ずほっ

ずほっ

ずほっ

「痛ッ……!」

「……やめじ……!」

「痛ッ……!!」

いいいっ

あ

うん

「乳首もコリコリ
してきたね〜♥」

「ぎやははははは!!

マジか!!
こいつ〇学生のくせに
ケツ穴でイキやがった!!」

ぬ

ぽん



「ハレンチな
お尻してるねえ〜♥
唯ちゃん?」

「……」

「いやあり〜
唯ちゃんアナルの素質あるわあ(笑)」

はあ!

ペロ〜ッ

はっ!

「ヤベェ
はやく使いてえ♥

オイ、さっさと洗浄しようぜ。洗浄」



「.....痛ッ!!」

「あーん」

「やっ……離して……!!!」

「こら暴れんな!
おとなしくしてろって!!」

「……くっ!
これ以上何をする気!?!」

「大丈夫だって♪
ただ唯ちゃんに美味しい果物を
食べさせてあげようと思ってね♡」

「ぐっ
ぐっ」

「くだ……もの……?」

「そ♪
美味しい美味しい——」

「たた
ばた」

イチジク浣腸をね♡

「!?」



ちゅ

ぽんっっ

「二個目終了ー了おー」

「~~~~ッ!
何!?何をしたの!?!」

「だから浣腸だよ!
カ・ン・チョー♥」

「かん……ちよ……う?」

「どう……して
そんな」

「どうしてって
キレイにしないと使えないだろ? (笑)」

「ハイ
ハイ」

「ひゃううっ!!」

「『ひゃううっ』だって
カーワイイー(笑)」

「まだまだたくさんあるから
エシリョしないで食べてねー♡」

「~~~~~ッ!!!」



「!何を…!!」

「ん〜?
唯ちゃんまだまだ
満足してないみたいだし
もつとご馳走してあげるよ♥」

「今度は
浣腸器でな!!」

「さあさあ!!」





「どう?唯ちゃん
コレは効くだろう」

「かはっ!」

はっ
はっ

「——って話
聞いてる余裕もなさそうだな」



「2本目
入りまーす♪」

ガク
ガク

「……ウソ……!」

「でもね唯ちゃん、
まだまだ終わりじゃないんだわ♥」

「ふえ!!」

「無理……もうムリ……!」

もう入らな



「!!!」

さらに
浣腸されること
数十分

んぐんぐん

ぐんぐん
きゅん
きゅん

んぐんぐん

「腹パンツパンだな♪
妊婦みてェ♪」

「さすがに今度こそ限界だろ♡」

「おおー♪
ズイブンとたくさん
入ったなあ♡」



「苦しそうだねエ、唯ちやくん?」

「……ッ!」

「……ッ!」

「そろそろ『お願いします、
トイレに行かせてください』って
言いたくなってきたんじゃない? (笑)」

「ぎゅっ
ぐゅゅゅゅ」

「ふざけないでッ……!!」

「あなたたちになんかに……
……私は絶対に屈しないんだからッ!!」

「……ホント強情だねえ。
本当はプリプリひり出したくて
仕方がないくせに!」

「しょうがねエ、なら自分から泣いて懇願したくなるようにしてやるよ♡」

「オイ、誰かコイツのケツに栓をしてやれ♪」

「じゃあオレが♡」

「みぐうっ!!」



「つー訳だから唯ちゃん？
もうさっさとひり出しちゃってくれる？」

「ひっ!!」

(ちよっと待って……
今抜かれたら出ちゃ……)

(う○ちが……!
ウ○チがでちやう……ツ!!)

「……あの……
トイレに……」

「いまさら!?!
いいよいよ
今ここでブチ撒けちゃって!」

(そんな……人前でなんて……)

(……ああ……もうダメ……!!
出るっ……!漏れちゃう……!!)

いやあああああああ漏れるうツ!!

ぬ
ぽん
アヒッ





びゅん
ちゅん

びゅん
ちゅん

びゅん
ちゅん

びゅん
ちゅん

びゅん
ちゅん

「うわあ、こりやまた盛大にぶち撒けたねえ(笑)」

「.....」

「やべ、興奮しすぎて射精しちゃった」

「さすがにこれは出し過ぎだろ...」

「どんだけウ○コ溜めこんでんだよ(笑)」

「げんご」

「んんん」

「んんん」

「ポトッ」

「唯ちゃんの脱糞してる姿おっさんに後ろからバッチリ撮られちゃってるよ」



「さて、と……
次のステップに進みますか？」

「……
まだ何かするの……？」

「そりゃあまだまだ
始まったばかりだしね♡」

「洗浄は済んだし
今度は慣らさないとな♡」

ぐす……

「慣ら……す……？」

じ
た
た
っ
ば
た
っ



「!?…何?…ソレ…!」

「コレ?コレはねえ♡
オレたちが唯ちゃんのお尻の穴を
使って遊ぶための玩具だよ!」

「まさか…それを入れる気…!?!」

「いや…やめて!
そんなの入る訳」



「ふあああ!?!」

「二個目
はりりまーす!」

ビクッ



「2個目〜」

「……ぐ……」

「3個目〜」

「……んぎり！」

つ
ぽ
ん
つ
ぽ
ん
つ
ぽ
ん

「4個目え〜♥」

「……ツッ!!」

ビ
ク
ッ

「すんなり
飲みこんでくなあ
唯ちゃんやっぱり
アナルの素質あるわあ」

ビ
ク
ッ

「ほくら唯ちゃん♪
全部挿入れ終わったよ〜♡」

「……え……？」

「こんなにながしいモノを
全部飲みこむなんて
欲張りな肛門だねえ(笑)」

「……ウツ……!!
あれが全部入ったの……？」

ぷんぷん

(私のお尻の中に……?)

「さうとど♪唯ちゃん
心の準備はいいかい？」

ビクッ

「……………え!？」

グイッ

「……………え!?!
まさか……………引き抜くつもり……………!?!」

「何言ってるの♪
このまま挿れっ放しじゃ
困るでしょ?(笑)」

「それは……………そうだけど……………」

「……………お願い……………
せめてゆっくり抜い……………」

「てへあああああああああああ!?!」

「却下♪」



「あはははははははッ!!」

唯ちゃんスツゲエ声♪」

「てへあぁっ」だってより
ギヤハハハハッ!!!」

ふんふん

「そんなに
気持ちよかった?
ねえ!!」

「~~~~~っ!!」

(なんで…この人たちはどうして
こんな非道いことして笑っていられるの…?)

「ひうつ!!」

「ウソ……また……!!」

「当然だろ♪」

びん

ハッ
ハッ
ハッ

「この後ここにいる全員の
チ○ポもブチ込むんだから
よくほぐしておかないとな♡」

「ちん……?」
「え……?」



「ホラ、どんどんイクよお♥
ひと〜っ♪

ふたあ〜っ♪

「らち……ッ
……もう……やめてえ……!!!」

「ほんといい
オモチヤだよなあ♪
唯ちゃんは♥」

「ああ、もう
我慢できねえ♥」

ズパッ
ズパッ

「!？」

~~NO~~
~~イヤ~~





「上の口使わせてもらおうわ」

「ひっ!!」

ズン
おん

(これ…おち…ん…?)

(ウソ…こんなに
大きくなるの…?)

ビクッ

ビクッ

(まさか……
回の中におちん○ん
挿入れる気なの……!!)

(……くち……)

ぱらーん
ぱらーん

「オラ、嬢ちゃん
クチ開けな！」

「……いや……っ！」

ぴ

とっ



「オイコラ、抵抗すんじやねーよ!!」

「ん——ッ!!」

「はやく啜えろオラァ!!
齒ア全部へし折んぞ!？」

「ん——ッ!!」
（…絶対イヤッ!!）

「オイオイ、あんまり
乱暴にするなよ？」

「可哀想だろ!？」

ん——ッ!!

シッ

ハッ



「そお〜れ♪」

開門かいもん

♡

「んほおおおおおお!!」

「おお〜!
開いた開いた♪」

「これでもう
閉じられねえぜ!!」

「あがつ!!」

ほほほ

ほほほ

ほほほ

「んがっ……!？」

ガシッ

ぬほほほほほ

ビクッ

おおほ

「ガンガン喉奥
抉ってやるぜえ!」

「覚悟しろよオ?」

抵抗した分
激しくイクからなア!!」

「はあ……
やめへえ……!」

んん

んん

「ンぽおおおおおおおおおッ!!」

「~~~~~」

んぽ



ズキョッ

「んぼおっ?!」

「オラッ!」

ズキョッ

ズキョッ

「げぶッ!?」

「オラアッ!!
もつと喉マ○コ
締めろやコラアッ!!」

「うわぁ、ひっでェッ
いきなりイラマかよ(笑)」

ズキョッ

「おっおっ!」

(…息が…ッ!!)

ズキョッ

ズキョッ

「唯ちやりん
苦しいだらうケド
肛門にも集中してねい♥」

ズキョッ

ズキョッ

ズキョッ

ズキョッ

ズキョッ

いほお

「くっ、もう射精そうだ!

このまま喉の奥に射精すぞ!
こぼさず飲めよ!」

「…んぶお!」

(…飲…む…っ
…っって何…を…っ)

いほお

「いいカンジに
ほぐれてきたな♡」

「しっかしまあ、
まーたお尻でイクなんて
ホント唯ちゃんは
ハレンチだねえ(笑)」

「—!!ち、違う!」
私はハレンチなんかじゃ—」

「そう?でもだんだん
声のエッチなカンジに
なってきたけど—」

カアアアア

ぬぽお♡

「さて、とか
唯ちゃんも気持ちよく
なってきたみたいだし…」

そろそろ本番と
いきますか♪」

カアアア

カアアア

「いくよ唯ちゃん、
力抜いててねえ〜♡」

「!？」

(痛ッ…な、何!?
何か入ってくる…!?)

「いつ!?
いつ!?」

「いいいいいいいい!!」

「おおり♪
やっぱ狭いけど念入りに
ほぐしただけあって
挿入る挿入る♡」

ゲゲ

「挿入^はった^い」
♪

「っ!!」

「ほら唯ちゃん
見て見て♥」

「痛ッ…
抜い…て…!!」

「痛い…ッ!!」

「唯ちゃんのお尻の穴に
おじさんのチ○ポ
全部挿入^はったよ♥」

「痛いイツ!!」

ビュルッ

ビュルッ

（…信じられない…!!
お尻の穴にお〇んちんを
挿入るなんて―「あっ、やべっ―!

射精る!」

「~~~~~ッ!!」

「オイオイはえーよ(笑)」

「唯ちゃんのケツ穴が
あまりに気持ち良過ぎて
つい…。」

「なんにせよ
アナルも解禁したことだし
どんどん輪姦してこーぜ!」

かまは?

そして――

その後も男達は
休むことなく
唯の身体に群がり……

ビュル
ビュル
ビュル

そして猛る欲望を
吐き出していった――

思い思いに

なぶ
すり、

もてあそ
び、

グ
グ
グ

「ホーラ、
全部飲み込まないと
窒息しちゃうぞー♡」



「ふう♡
射精した射精した♪」

「最ツ高♡」

これだから
○ガキ学生を犯るのは
やめられねえ!!」

「へばるのはまだ早いぜ嬢ちゃん♡」

まだ一巡もして
ねえんだからなア!!」



や
ハ
オ

ヒクツ

ヒクツ

ち

は
は

「んほお!？」

おほおおおおおおお!

「うわっ!コイツ
ザーメン吐き出しやがった(笑)」

ズポ
ズポ
ズポ

「ホラ唯ちやりん
次のチ○ポだよ♡」

(いや...もう...
誰か...助けて...!)

「休んでるヒマなんてないよ、
チ○ポはまだまだ
たくさんあるんだからね!」

ぜ
ぜ



「どうして〜」

「犯った犯った♡」

「とりあえずこれでひとマワリしたな♪」

「いや、唯ちゃんの穴サイコーに気持ちよかったよ♡唯ちゃんも気持ちよかった〜?」

「……」

「……ってアレ?なんか睨んじやってるよ?」

「おっ」

「おっ」

ズッコ

ズッコ

ズッコ

ズッコ

ズッコ

ズッコ

ズッコ

ズッコ

REC

「…おなら…」

「…許さない…
こんなハレンチなこと…」

「ハレンチって言葉
好きだなめこのコ(笑)」

「絶対に…
許さないんだから…!!!」

「ああ
イクッ♡」

「唯ちゃんの
アナルでイクッ♡」

「必ず…あなたたち全員…
警察に」

唯ちゃんのケツ穴に
ザーメン浣腸
注入するうッ!!」



「おほおおおおおおおおお♡♡♡」

「いぐうッ!!」

イグウッ

REC

イグウッ

イグウッ



「アハハハハッ」
「いま唯ちやん
アへってなかつた!」

「……」

「ま、何にせよ
まだまだ元気そうで良かったよ」

「これならまだまだ
楽しめそうだ!」

ゆっさ

ゆっさ

けほ

「よーし、それじゃあ
2巡目イッてみようか!」

「もっと人数増やそうぜ!
オレ連絡取ってくるわ!」

「ああああ〜」



それから
数時間…

日もだいぶが
傾いてきたが

(もう嫌アツ……!!)

(いつまで続くの……?)

これ——!!



唯への凌辱が
終わることとはなく——

ビュルッ

ビュルッ

「うわっ！
ションベンしやがった！」

「おらっ！！
イケッイケッ！！」

「脱糞の次は
放尿かよ(笑)」

ニメ
ニメ
ニメ

ズポッ
ズポッ
ズポッ
ズポッ



それどころか
男達の数も
さらに増え……

唯が気絶しようとも
お構いなしに
輪姦し続けた——

「ゲツもだいぶ
緩くなってきたなあ……」

「ザーメン噴き出してんぞ(笑)」

「なあ、そろそろ
前も使おうぜ!」

ゲツ

ゴヤッ

「ああ……」

「……」

ゲツ

ゲツゲツ

「オラ寝てんじやねエよ!

起きろ!!」

レブルレブル

「うぼお!」

「・・・さすがに
元気なくなってきたなあ」

「——っただけ
輪姦せば当然か!」

◎学生だしね♥



「ぶひっ♥」

「」◎オナホ♥
」◎のケツオナホっ♥」

「カレ・・・キ・・・」

「ダメだもうガマンできねえ!」

「なあ、一斉にぶっかけようぜ?」

「オイいつまで掘ってんだ、
はやく替われ!」

「まだまだ後が
つかえてんだぞ!」





「ぞらっ!」
射精るぞ!」

「射^で精るぞ!!」

「射^で精るッ!!」

「おっ!」
「おっ!」
「おっ!」

「クッ」
「クッ」
「クッ」

「ハッ」
「ハッ」
「ハッ」

「アッ」

「ドッ」
「ドッ」
「ドッ」

「どっ」
「どっ」

「びゅん」

「ビュルル」

●REC

ゴッ
アッ

「うわあー…
唯ちゃんドロドロだな」

「なんか全然
反応しなくなったケド大丈夫？」

「夜になっちゃった…
かれこれ何時間くらい
ヤッたんだろうな？」

ロロオ

[……]

「別にマグロでも
問題ねエだろ？」

穴さえ使えりやあ♡

「パーカ
それじゃあ
つまんねーだろ？」

「クスリ使おーぜ
クスリ♡」

ゴッ



夜が更けてもなお
この極悪非道の
輪姦地獄は終わらない

「いやあ〜♪
たいへんイイ画が
撮れましたなあ♡」

フリディーな○学生の
集団レイプ動画♡

「さて、と
わしはもう帰りますケド
皆さんはどうしますかな？」

「もちろん朝まで
輪姦すに決まってるだろ♪」

夜はまだまだ
始まったばかりだぜ♡

実際に唯が
解放されたのは
三日後のことだった...

びゅん
びゅん
びゅん

「アへ顔
ダブルピース♡」
トモエ

びゅん
びゅん
びゅん

びゅん
びゅん
びゅん

ドムッ
ビュッ

ドムッ
ドムッ

びゅん